



- ① ダウンジャケット以外なら何でも縫製可能。女性従業員の熟練の技を支える。
- ② 子供服はシーズンの約4ヶ月前にメーカーから発注が入ることが多い。現在は2013年秋冬物衣料製造の真っ最中だ。
- ③ 結婚や出産を経て女性が働ける職場づくりが同社のポリシー。内職スタッフも含め同社に関わる女性は非常に多い。
- ④ 検針は売場に出る前の最終工程。専用機を導入して1点1点厳しくチェック。
- ⑤ 一度に9色の刺繍が可能刺繍機。
- ⑥ デザイナーからメールで届いたパターンをチェックし、サンプル製作に取りかかる。CAD/CAM導入で品質は向上した。
- ⑦ 裁断機でパーツにカットしていく。
- ⑧ レースにリボンを縫いつける。美しいギャザーの寄せ方や、異素材同士の縫製はもともと技術を要する部分でもある。
- ⑨ 工場の全景

発信!!  
いわての  
力こぶ

# 「技術」と「気づく力」こそ日本のものづくり

我が社の  
力こぶ  
はコレ!

女性の根気と手先の  
器用さがものづくりの鍵

縫製業は人の手がかかる仕事。作業を続ける根気や手先の器用さはやはり女性が優れています。テーマは彼女たちが働きやすい環境を作りつつ、小ロット多品種というニーズの中でいかに高い技術を継承していくか。チャレンジは続きます。

代表取締役  
寿松木 亨



日本国内で流通する衣料品は、今や95パーセント以上が海外生産品。生産力はもちろん技術力でも攻勢をかけてくる各国に対し、生き残りをかけてものづくりに取り組んでいるのが、久慈市の縫製会社プランタンいずみである。中国で技術指導にも携わった寿松木社長は、日本人の持つ「気づく力」こそが厳しい生産競争に打ち勝つ鍵と説く。

## 婦人服販売から子供服製造へ。久慈市の地場産業を支える

高度成長期、工業生産量の飛躍的増加などを受けて各地で加速した産業集積。特定地域内に企業が立地し「○○の町」と呼ばれるような産業構造を形成する状態で、長野県坂城町や新潟県燕市などが知られている。最も近年は生産拠点の海外移転により急速に姿を消しつつあるのだが、その中で久慈市は誘致企業15社16工場のうち半数の7社8工場が繊維製品製造業という、非常に特徴的な産業構造を有している。

「縫製業といっても生産品目が違い、有する技術も違う。すごく勉強になります」。

父である先代社長から事業を引き継いで5年、株式会社プランタンいずみの代表取締役、寿松木亨さんはそう語る。同社はベビー服と子供服の縫製を専門とするが、新生児のおくるみから中学生程度までとサイズ展開は広く、ジャケットやパンツなどのフォーマルからTシャツやバッグ等の小物までと、アイテムもオールラウンド。「取引先からの要望でパターンをひとつ、またひとつと増やしていった」と寿松木社長はいい、社会や顧客ニーズに合わせて同社が柔軟に事業を展開してきたことがうかがえる。実際、同社は創業時は高級婦人服店であったが多角化を図って縫製業に進出、昭和48年に子供服縫製へと業態転換した。現在は裁断から納品までの一貫生産体制を

整え、顧客には有名アパレルメーカーが名を連ねる。

## メイド・イン・ジャパンとは日本人が持つ「気づく力」である

メーカーが信頼を寄せる理由のひとつは、もちろん高い縫製技術だ。着やすさを求める子供服では、たとえば綿とジャージ素材のように伸縮度の違う生地を組み合わせることも多いが、布や糸の調子などを微調整しつつ縫わなくてはならない。寿松木社長いわく、この「手加減」が出来るかどうかで仕上がりは大きく変わる。「デザイナーのイメージは送られてくるパターン(図面)だけではわからない。より正確にイメージを実現するには、縫製者自身も考えないと」と、寿松木社長は続ける。持論は、約4年間の中国滞在で得たものだ。

平成16年に提携先の上海工場の品質管理のため、寿松木社長は中国へ渡っ

た。そこで桁違いの生産力を目の当たりにし、日本の縫製会社が生き残っていくため何が必要かに思い至る。技術力や流通メリットもあるが、一番は「気づく力」だという。「中国人は、指示されたことは一生懸命やり遂げる。でも日本人はデザイナーの好みを熟知し、縫い方ひとつでシルエットが変わることやコストを下げる方法など工夫できる。久慈にこれほど縫製会社が残っているのも、『気づく力』があるからでしょう」。

当センターが毎年開催しているアパレルマッチングフォーラムも「メイド・イン・ジャパンに関心のある企業を集めてもらえる大事なチャンスだから」と寿松木社長は積極的に利用。着実に、久慈市が誇るメイド・イン・ジャパンの周知に努めている。

「あのイタリアみたいに、久慈が縫製のブランド産地になっていけばいい」。寿松木社長が描くのは、地場企業と地域がともに発展していく将来だ。その実現は、それほど遠い未来のことではないだろう。

株式会社プランタンいずみ  
支援企業紹介 久慈市



会社名 株式会社プランタンいずみ  
本社 岩手県久慈市寺里29-33-1  
本電話 0194-53-2281  
代表者 寿松木 亨  
創業 1982年  
従業員 65名  
従業員種 縫製業、海外生産の品質管理、納期管理  
U R L http://prantan-izumi.net/